



東京都家庭薬工業協同組合会報

かていやく

平成30年11月 通巻96号



初冬の富士とスキの穂

かていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款 第1章 第1条(目的)より

目 次

通巻96号 2018年11月30日

理事長就任にあたって	3
第71回通常総会の開催 ～役員の改選～	4
特集 家庭薬シンポジウム	5
特集 家庭薬キャラクター大集合！ 家庭薬啓発活動を効果的に促進	9
家庭薬ロングセラー物語／百草丸	12
委員会だより 総務、薬事制度・薬事、薬事制度・品質、流通、 労務、消費者対応、情報広報	14
工場見学 ユースキン製薬株式会社	20
家庭薬グラフィティー	22
事務局だより 編集後記	24

表紙題字／第4代理事長
表紙写真／相談役、救心製薬(株) 代表取締役社長

津村重舎
堀 正典



理事長就任にあたって

東京都家庭薬工業協同組合

理事長 塩澤 太郎

この度、理事各位のご推挙並びに、総会で組合員の皆様のご承認をいただき、理事長に就任いたしました養命酒製造（株）の塩澤です。超高齢社会の到来とともに、一般用医薬品業界が果たさねばならない役割はますます大きくなっており、当組合も業界の中であって、この役割の一端を担うこととなります。そのような状況での、理事長就任に、改めて身の引き締まる思いではありますが、皆様のご協力のもと、少しでも良い方向に進めるよう努めてまいりますので何卒よろしくお願いいたします。

さて、もはや、高齢化社会ではなく、超高齢社会と言われるようになってまいりました。これには、これまで国を支えてきた「団塊の世代」が、75歳以上となり、給付を受ける側に回る、いわゆる「2025年問題」が背景にあると思われます。社会保障費や医療費が急増することが懸念されており、わずか7年後のことで、待ったなしの状況だと言えます。昨年スタートしたセルフメディケーション税制は、その対策として重要な施策の一つだと認識していますが、初年度は、利用者が少なかったと聞いています。保険が適用される医療用医薬品に比べ、全額自己負担になる一般用医薬品が選択されにくい状況を改善する契機になると期待していましたので、残念な結果ではありましたが、今後、業界として取り組むべき課題も見えてきたと思っています。

まず、セルフメディケーション税制の認知度を高めること。まだまだご存じない方が大勢いらっしゃると思います。その普及には、業界全体で取り組まなければなりません。次に、普及活動のモチベーションを高めるためにも、より利用しやすい制度にしていくよう、対象商品をスイッチOTC薬に絞らず一般用医薬品すべてに広げることを、行政に働きかけていく必要があります。加えて、現在、5年の時限立法であるセルフメディケーション税制を恒久法にする働きかけも重要だと思います。いずれも、年々増え続け、2025年には60兆円を超えるとも言われ

ている医療費の軽減効果になる活動であり、「国民皆保険」というすばらしい制度を維持していくためにも、ぜひとも力を入れたい、入れるべき活動であります。

また、医療費を抑えることも重要ですが、私たちが、目指すべき本流は、人生100年時代といわれる昨今において、「健康寿命を伸ばす」ことであります。さらには、健康寿命のなかで、人の手を借りなければならぬ年数、女性13年、男性9年といわれるこの年数を少しでも縮めていかなければなりません。「健康寿命を伸ばす」ための「セルフメディケーション」であり、そこに貢献できるのが一般用医薬品、特に家庭薬です。セルフメディケーションの実践にあたって、「予防をする、未病を改善する」といった健康管理を考えると、また、自らの選択で服薬をするとき、家庭薬が持つ、伝統と使用経験から来る「安心感」は大きな役割を果たします。さらに言えば、当組合のホームページには、「長い歴史に甘えることなく、伝統薬の未知の分野を最新の科学技術により、解明し」とありますが、こうした活動を進め、「安心感」「信頼感」をより一層強めていくことも大切です。

3選を果たした安倍首相は、選挙戦中の討論会で、人生100年時代について「予防」の重要性を明言しており、その流れの中であって、我々は、家庭薬の存在感を示していかなければなりません。人生100年時代には、健康で100歳を迎えることが強く望まれます。そのためには人々の生活基盤に「セルフメディケーション意識」が根付いており、家庭薬がその一翼を担っているといった状態を何としても作り出すことです。先行き不透明な経済状況のなか、家庭薬業界の状況が厳しいことは実感しておりますが、そのような理想を掲げさせていただき、繰り返しになりますが、皆様のお力添えをお願いして、理事長就任の挨拶とさせていただきます。

（養命酒製造株式会社 代表取締役社長）

第 71 回通常総会の開催 ～役員の変更～

5 月 23 日（水）15 時から千代田区・神田明神会館「竹の間」において第 71 回通常総会が開催され、組合員 33 人のうち 29 人（委任状による出席 11 人）が出席しました。太田理事長が満場一致で議長に推薦され、5 月 11 日（金）理事会において総会議案として承認された下記議案を審議しました。

- 第 1 号議案 平成 29 年度事業報告及び決算関係書類承認の件
- 第 2 号議案 平成 30 年度事業計画、収支予算及び賦課金・会費並びに徴収方法各案決定の件
- 第 3 号議案 平成 30 年度における借入金最高限度額決定の件
- 第 4 号議案 平成 30 年度新規組合加入者の出資金及び加入手数料決定の件
- 第 5 号議案 平成 30 年度役員報酬決定の件
- 第 6 号議案 年度途中における予算の一部変

- 更承認の件
- 第 7 号議案 定款の変更の件
- 第 8 号議案 定款変更許可申請における字句の一部修正委任の件
- 第 9 号議案 理事及び監事の選挙の件

第 1 号議案から第 8 号議案は 4 月 12 日（木）総務委員会及び 5 月 11 日（金）の理事会において審議された議案であり、提案どおり承認されました。なお、第 7 号議案の定款の一部変更は組合員の資格に製造販売業を加え、反社会勢力を排除する規定を設けるとともに、関連する規定を整備するものでした。第 9 号議案は任期満了に伴う理事・監事の選出で、記名推薦制により役員候補者を承認した後、臨時理事会において以下のとおり執行部を決定しました。今回、太田前理事長は相談役・理事になられ、新たに塩澤前副理事長が理事長になられました。

東京都家庭薬工業協同組合役員名簿（敬称略、役職は就任時）

相談役	太 田 昭	株式会社太田胃散／取締役名誉会長
同	風間八左衛門	東京都家庭薬工業協同組合／元理事長
同	牧 田 潔 明	東京都家庭薬工業協同組合／元副理事長
同	堀 正 典	救心製薬株式会社／代表取締役社長
相談役・理事	太 田 美 明	株式会社太田胃散／代表取締役社長
理事長	塩 澤 太 朗	養命酒製造株式会社／代表取締役社長
副理事長	山 崎 充	株式会社金冠堂／代表取締役社長
同	藤 井 隆 太	株式会社龍角散／代表取締役社長
理事	堀 内 邦 彦	株式会社浅田飴／代表取締役社長
同	齋 藤 愼 也	イチジク製薬株式会社／代表取締役社長
同	宇 津 善 博	宇津救命丸株式会社／代表取締役社長
同	堀 厚	救心製薬株式会社／取締役副社長
同	渡 邊 康 一	三宝製薬株式会社／代表取締役社長
同	大 泉 高 明	株式会社大和生物研究所／代表取締役社長
同	玉 川 幸 彦	玉川衛材株式会社／取締役会長
同	加 藤 照 和	株式会社ツムラ／代表取締役社長
同	宮 川 修 作	株式会社東京甲子社／代表取締役社長
同	竹 内 彪 衛	株式会社山崎帝國堂／代表取締役社長
同	柴 賢 悟	株式会社老舗恵命堂／代表取締役社長
同	神 谷 信 行	わかもと製薬株式会社／代表取締役会長
専務理事	内 田 康 策	東京都家庭薬工業協同組合
監事	鉦 田 英 二	救心製薬株式会社／常務取締役・総務部門長
同	中 島 研 一 朗	啓芳堂製薬株式会社／代表取締役社長

家庭薬シンポジウム

平成30年9月15日
帝京平成大学 中野キャンパス

日本薬学会 関東支部

第62回日本薬学会関東支部大会が9月15日に帝京平成大学中野キャンパスにおいて開催された。日本家庭薬協会は「セルフメディケーションと家庭薬の今、そしてこれから」と題してシンポジウムを行い、家庭薬の利用状況や研究開発などの現状を踏まえ、今後の可能性について議論した。ここではその様子を紹介する。

テーマ：セルフメディケーションと家庭薬の今、そしてこれから

シンポジウムのねらい

- ・家庭薬の周知
- ・家庭薬は家庭の常備薬
→今も昔もセルフメディケーションそのもの
- ・家庭薬にも新たな波が押し寄せている
→近年の関連する研究成果と使用される
フィールドの広がり、セルフメディケーションへの新たな貢献を予感させる

オーガナイザー

渡辺謹三（株式会社いろは堂薬局）
白神 誠（帝京平成大学薬学部）



○家庭薬シンポジウム実行委員（五十音順）

宇津善行（宇津救命丸株式会社） 大草貴之（大草薬品株式会社）
太田淳之（株式会社太田胃散） 堀 厚（救心製薬株式会社）
渡邊康一（三宝製薬株式会社）

●セルフメディケーション推進と行政 白神 誠 （帝京平成大学薬学部）

セルフメディケーション推進を語るうえで欠かせないのが、2013年6月に政府が策定した日本再興戦略です。その中では、「国民の健康寿命延伸」をテーマに掲げ、国民自身が疾病予防や健康維持に努めるとともに、必要な予防サービスを多様な選択肢の中で購入でき、必要な場合には、世界最先端の医療やリハビリが受けられる、適正なケアサイクルが確立された社会を目指すことが明記されています。その一方、個人は健康な際、食事管理や運動などの予防・健康管理を継続して行う意識が弱くなる傾向がある、保険者は健康管理や予防の必要性を認識しつつも、



個人に対する動機づけの方策を十分に講じていないといったようなことが要因で、予防への動機づけが乏しいという問題点が挙げられています。こうした現状を打開するために個人、保険者、企業の意識・動機づけを高めること、健康寿命延伸産業の創出を両輪で取り組むことにより、自己健康管理を進める「セルフメディケーション」等を実現すると述べています。また、薬局を地域に密着して健康情報拠点として一般用医薬品の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行うなど、セルフメディケーション推進のために薬局薬剤師の活用を促進することも同時に明記しています。

さらに翌年に策定された「日本再興戦略改定2014」では、より具体的に医療用医薬品から一般用医薬品への移行（スイッチ OTC）の促進のための措置を講ずることを定めています。これを受けて厚生労働省では

スイッチ OTC の移行を図ってきましたが、関係医学会や医師会の反対もあり思うように進みませんでした。その後、同省は新しいスキームを構築し、これまでに 4 成分のスイッチ OTC 化が認められました。

セルフメディケーション推進の背景には、医療費抑制のねらいがあります。現在の医療保険の対象とされている部分をセルフメディケーションに移行することで、医療費削減にはつながりますが、一方で患者負担の増加という問題も出てきます。これを解消する手立てとして昨年の 1 月にセルフメディケーション税制が施行されましたが、対象となる商品が限られていることもあって初年度は納税者のうち、1%の利用にとどまっています。セルフメディケーションの推進、一般用医薬品の利用はまだまだ十分に進んでいません。これを打開するための取り組みが関係団体や企業に求められているのではないのでしょうか。

●セルフメディケーション時代における OTC 医薬品（家庭薬）の活用と教育 坂口眞弓（みどり薬局）



医薬分業の進展によって多くの薬局が調剤業務を主とする薬局に様変わりしました。しかしながら近年、医療費が増大したことから、日本再興戦略においてセルフメディケーション推進が唱えられ、そして「患者のための薬局ビジョン」において地域に密着した健康情報拠点として、OTC 医薬品等の適正使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を実施することが求められました。2015 年にはかかりつけ機能と健康サポート機能を併せ持つ「健康サポート薬局」がスタートしましたが、7 月 31 日現在、1042 薬局と、国が当初目標としていた 15000 薬局にほど遠い現状となっています。健康サポート薬局の届け出にはさまざまな要件がありますが、48 薬効群の OTC 医薬品を備蓄することがその要因として考えられます。

昨年の OTC 医薬品普及啓発イベントにおいて、検体測定室の利用者にアンケートを行ったところ（N = 121）、薬局の利用したい機能として「OTC の販売・相談」が最も多く、次いで「認知症早期発見の取組」「栄養相談会」という結果が出ました。2016 年にも同様の調査を実施しましたが、「OTC の販売・相談」は高い位置を占めていました。また年齢別に分析したところ、「OTC の販売・相談」機能について 20 代が他の年齢に比べて割合が高いことがわかりました。

OTC 医薬品の販売・相談について薬局で利用したい機能だけでも、いまだに調剤を主とする薬局が多いのは①薬局のスペースの問題②卸との取引契約の問

題③期限切れの問題④門前の医師との問題⑤薬剤師の知識の問題—が理由として考えられます。

スペースの問題では卸が 48 薬効群を各 1 個陳列できるような棚を用意しています。また、狭いスペースでも陳列できるように工夫することも必要になるでしょう。

門前の医師との問題では、OTC 医薬品を販売した後のフォローが大切です。モニタリングをして、症状が改善しない場合は、紹介状を用いて医師につなげます。これによって地域における医薬連携が進むのではないのでしょうか。

そして薬剤師の知識についての問題です。インターネットの調査（オールアバウトリアルサンプリングラボ）によると、薬を使用する際に重視することは、薬の効き目や副作用、相互作用に関することでした。これこそ薬剤師の職能を発揮する場だと思います。OTC 医薬品を販売するうえでのポイントは、マイナス面（副作用の回避）を避け、プラス面（有効性や利便性）から選択することです。

セルフメディケーション推進のためには OTC 医薬品の使用は不可欠です。今後、重要になることは、個人による「健康管理」と医療従事者による「健康サポート」です。薬局が少しでも OTC 医薬品を置くことが、セルフメディケーション推進につながるのだと思います。

●家庭薬・配合剤における製剤技術革新～服薬補助ゼリー開発を通じて～ 福居篤子（株式会社龍角散）



世界初の商品として発売された「らくらく服薬ゼリー」。「服薬は水で」という常識に挑戦した服薬補助ゼリーの開発についてご紹介します。龍角散に入社する前は、病院薬剤師をしていました。医療現場では、錠剤やカプセルを服用する際は、嚥下困難の患者さんだけでなく、服用しやすいという理由で粉碎し、飲料や食事に混ぜたり、経管チューブを使用したりして服用してもらっていました。粉碎することで思ったほどの治療効果が出ないことが予想されますが、医療現場では薬の効果よりも服用してもらうことを最優先した結果だと思います。また患者さんによっては食事を残すこともあり、結局のところ、効果的な治療ができなくなるという課題がありました。

ここでなぜ「水で服薬すること」が困難なのかについて考えてみたいと思います。人間は進化の過程で声帯が声を出すための器官に発達したために、気道と食道が交差し、これによって液体と固体を同時に飲み込

むことが苦手になったのです。また、水には固体を押し込む力が不足しているため、薬がのどへ付着しやすいことも原因として挙げられます。

そこで私はゼリーの特性に着目し、開発をスタートしました。経管チューブから薬を服用している患者さんに服薬補助ゼリーを使ってもらうことをお願いしたところ、口から服用することができるようになりました。それまで患者さんは寝たりきりの状態でしたが、口から服薬することで、1週間後にはベッドに座るようになっていたのです。口を動かすことが人間にとってどれだけ大事かを実感する機会となり、商品を世に出したいという気持ちが強くなりました。

服薬補助ゼリーは、嚥下困難な患者さんに安心して使用していただけるように、①のどストレスの評価(嚥下時) ②食道から胃までの挙動③胃内での崩壊と溶出④体内挙動⑤医薬品の作用や吸収の影響の有無⑥苦味マスキング評価—についての実験・確認を行いました。

ストレス評価に関してはゼリーで薬を飲んだ場合、水で飲んだ場合に比べストレスが優位に低いことがわかりました。また、ゼリーがのどに詰まらないように、ストローには4つの穴を開け、クラッシュゼリーの粒の大きさが小さくなるように工夫しました。溶質試験では、胃の中では水の服薬時と同様に胃内で崩壊・溶出することを確認しました。

医薬品の作用や吸収に影響を与えないように、医薬品添加物のみを使用し、ナトリウムやカリウムのミネラル類は、水道水と同等以下とし腎臓疾患の方でも飲んでいただけるように配慮しています。

発売当初は、医師会、薬剤師会の反発がありましたが、継続的な啓発活動に取り組んだことで、今では医療者から認められるようになり、さまざまな賞を受賞することもできました。これからも家庭薬メーカーとして消費者のニーズに合わせた製品を開発していきたいと思います。

●生薬の研究とその可能性について 荒川秀俊 (昭和大学薬学部)

植物は、光合成により自己の成長に必要な養分のほかに自己防衛に必要な成分も生産しています。その代表的な成分が太陽光で発生する活性酸素に対する抗酸化物質であるポリフェノールです。もう一つが外敵である微生物に対する抗菌物質。これは抗酸化作用の過程で生成された活性酸素すなわち過酸化水素によるものです。つまりポリフェノールは抗酸化作用をもつ一方で、過酸化水素を生成して抗菌作用をもつという特性があります。これを踏まえ



て、ポリフェノールの一種であるカテキンの抗菌作用と、整腸薬と活性酸素についてお話しさせていただきます。

20年くらい前にカテキンの抗菌作用の研究をしていた頃は、カテキンから活性酸素が生成されているというのが一般的ではありませんでした。そこで、お茶の中に含まれているカテキンを測定したところ、活性酸素が生成されていることを突き止めました。次にカテキンの抗菌作用について調べたところ、お茶に含まれるカテキン量で多くの菌が死滅しました。しかし、ある種の菌ではほとんど効果のないこともわかりました。そこで、これら10種の菌に対する過酸化水素の抗菌作用を検討したところ、過酸化水素の感受性に違いがあり、カテキンの抗菌スペクトルを示していることを明らかにしました。

次に整腸薬と活性酸素についてお話しします。胃腸に作用する生薬の効能として、整腸作用、健胃作用、止瀉作用が知られていますが、作用機序を含めて明らかになっていません。そこで薬から生じる過酸化水素の量を測定したところ、過酸化水素濃度の高い五倍子や垂仙薬、楊梅皮は止瀉薬として、中程度のものは整腸薬として、さらに低いものは健胃薬として使われていることがわかり、過酸化水素濃度と生薬の使い分けが関係していることが推測されました。ここで「高濃度の過酸化水素を発生させる生薬は、病原菌を殺すが、同時に整腸に作用する菌も殺してしまうのではないか」という疑問が生じました。そこでそれぞれの病原性の菌と整腸作用がある菌の過酸化水素の感受性について調べました。濃度の高い過酸化水素の場合は、ほとんどの菌は死滅しました。ところが、濃度が半分くらいになると、病原菌は死滅しますが、整腸作用のある菌は死滅しないことがわかりました。つまり濃度の高いものは止瀉剤として使われ、それよりも低いものは整腸薬として使われることがわかったのです。ここで使った生薬はポリフェノールを主成分としていることから、過酸化水素を生成することで胃腸薬として作用していることが推測されました。

●家庭薬の国際化～紫雲膏プロジェクトを通じて～

平山謙二 (長崎大学 熱帯医学研究所)

家庭薬としてはなじみ深い紫雲膏が熱帯病に使えないかというプロジェクトを行いましたので、これを例に家庭薬の国際化戦略について考えてみたいと思います。最近では2015年にノーベル賞を受賞された大村智教授をはじめ多くの研究成果が熱帯病に関して大きな貢



献を果たし、世界的に注目されています。

これらのおかげで、マラリアが10年前よりも半減したり、河川盲目症がほとんど撲滅に近い状況になったりしましたが、依然としてアフリカや南米といった国では5歳になるまでの感染症による死亡率は変わっていません。「顧みられない熱帯病」と称されるマラリアやリーシュマニア症（原虫が皮膚を刺し、難治性の皮膚の潰瘍をつくる病気）といった途上国特有の病気の治療法は、市場原理が働き医薬品やワクチンの開発が進んでいないため、世界的に大きな課題となっています。これを解消するために、G7サミットでは日本やドイツが中心となって対策を進め、医薬品の開発などについて施策を広げています。グローバルで見た場合、健康に関する不公平をなくすために医薬品の開発をどう進めていくのか、こういったことを先進国が率先して進めているのです。

われわれは、一つのアプローチとして日本の伝統医学を取り入れ、なんらかのイノベーションを起こすことができるのではないかと、いうことを考えました。家庭薬のような長年使われている医薬品は、品質面でも技術面でも突出し、安全性も確保されているのは大きなアドバンテージです。そこでわれわれは家庭薬を適応拡大というかたちで導入することを目指し、皮膚リーシュマニア症に対する紫雲膏の治療効果について第2相臨床試験を行いました。流行地であるエチオピアの宗教上の問題で、豚脂を使っていない紫雲膏を製造している大草薬品の協力のもと、「紫雲膏プロジェクト」としてスタートしました。臨床試験はエチオピアのアーマーハンセン研究所との共同研究として行い、患者40名を、実薬20名、プラシーボ20名とにランダムに割り付け、4週間の塗布治療とその後12週の観察を行いました。16週後のすべての検査結果から完治、部分的な治癒、失敗に分けて評価しました

が、実薬およびプラシーボ群において有意な差は得られませんでした。病変の縮小率をみると16週において有意に実薬で効果を示すことが示唆されました。

一方、マラリアについては近年、薬剤耐性が問題になっています。われわれは、抗マラリア作用を持つオウバクやオウレンが含まれている大草胃腸散に注目し、動物実験で検証したところ、マラリアに効果があることを確認しました。

まだまだ課題点は多いですが、家庭薬を含めた安全性の高い薬を応用し、途上国を中心に蔓延する感染症対策のための新たな医薬品開発のモデルを構築していきたいと思っています。

●まとめ 渡辺謹三 (株式会社いろは堂薬局)



シンポジストの皆さまからさまざまな観点で家庭薬についての話題をご提供いただき、今回のシンポジウムで家庭薬の課題と可能性が浮き彫りになったのではないかと思います。私は今年の3月まで東京薬科大学で教鞭を執っていましたが、セルフメディケーションや家庭薬を含めた一般用医薬品についての薬学部での関心はそれほど高くありません。薬学部全体でセルフメディケーションや一般用医薬品について研究しているところは私の研究室を含めて2つしかないのが現状です。これらを普及することは医療費だけの問題だけでなく、国民の健康生活を維持・増進していくという意味で重要だと考えております。薬学部でも関心を高め、学生に適切に教育し、セルフメディケーションや家庭薬に目を向けた薬剤師を社会に輩出していただきたいと思っています。



質疑応答では活発な議論が交わされた



日本家庭薬協会の展示ブースの様子
※詳しくは家庭薬グラフィティをご参照ください。

家庭薬キャラクター大集合!

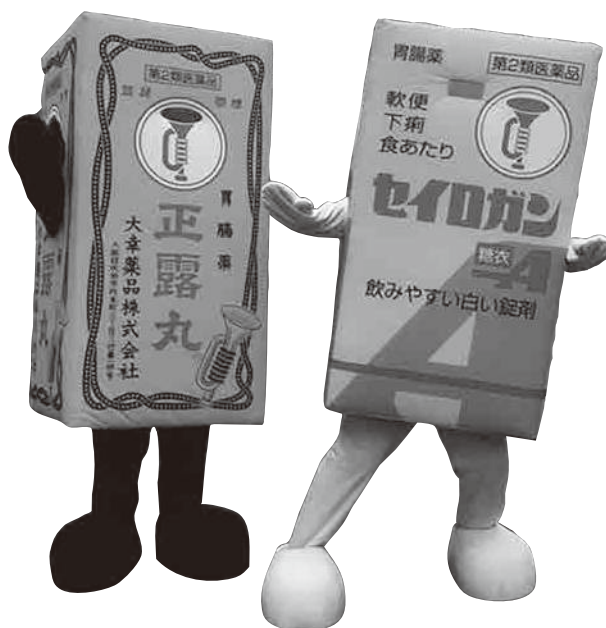
家庭薬啓発活動を効果的に促進

近年、広報活動を効果的に行うために自治体や団体、企業などがキャラクターを制作し、イベントなどに参加する光景を見ることが多くなった。家庭薬の会員企業においても製品キャラクターを制作し、OTC医薬品普及啓発イベントや神農祭などのイベント、JAPANドラッグストアショーなどの展示会において家庭薬の普及啓発に努めている。ここでは、各企業のキャラクターの特徴や活動状況などを2回にわたって紹介する。

大幸薬品株式会社

正露丸くん

正露丸くん（兄）
11月18日 生まれ
大阪出身
性格：昔から変わらない頑固者
特技：トランペットの演奏
将来の夢：トランペットでメジャーデビュー



セイロガン糖衣Aちゃん

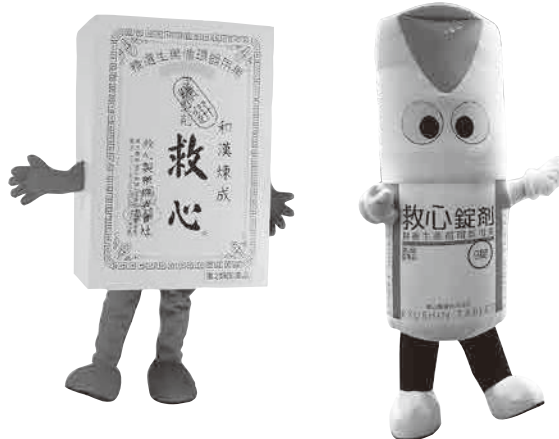
セイロガン
糖衣Aちゃん（妹）
10月1日 生まれ
大阪出身
性格：甘えん坊
特技：英語（世界進出に向けて勉強中）
将来の夢：世界中のおなかのトラブルを解決する

大阪出身の正露丸くん（兄）とセイロガン糖衣Aちゃん（妹）。医薬の神を祀る少彦名神社（大阪）の「神農祭」、薬業団体のOTC医薬品の普及啓発イベントなどに兄妹で仲良く参加。まさかの「ニオイ付き」のオリジナルの名刺も配布しながら、セルフメディケーションの推進に熱い想いで取り組んでおります！

正露丸くんは、トランペットでメジャーデビューが夢だとか。甘えん坊のセイロガン糖衣Aちゃんは、世界中のおなかのトラブルを解決するべく、英語の勉強中。

救心製薬株式会社

救パッケくん



ボトルマンジョー



救心のマスコットキャラクター「救パッケくん」と救心錠剤のマスコットキャラクター「ボトルマンジョー」です。

巨大な救心の箱の「救パッケくん」。背中には大きな救心の瓶を背負っています。果たして何粒入っているのでしょうか。瓶の中でコロコロと転がる丸剤に注目です。

責任世代の強い味方「ボトルマンジョー」。背中にあるピンクの錠剤がチャームポイント。見た目にそぐわないコミカルで軽快な動きが得意です。

公式サイト <http://www.kyushin.co.jp/>

株式会社太田胃散

太田胃にゃん



太田胃散公式PR大使「太田胃にゃん」は、3万匹に1匹の確率でしか誕生しないとも言われている三毛猫の男の子です。太田胃散ブルーが特徴で、その希少性から出会うと縁起がいいと言われています。日本橋出身で、特技は柔軟体操、さんまが大好きです。全国各地のイベントへ参加、コラボ企画に挑戦する様子等を、太田胃にゃん公式HP、Twitter等で公開中です。

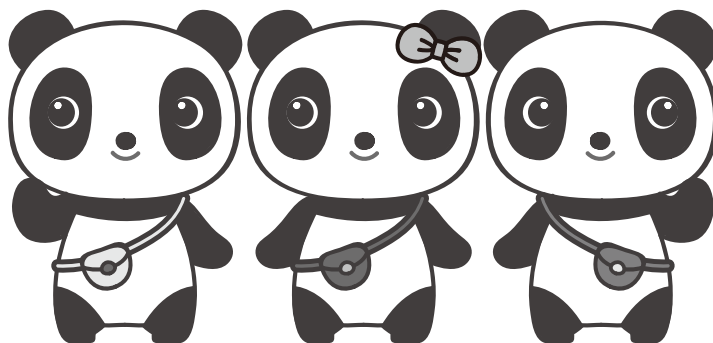


公式サイト <http://www.ohta-isan.co.jp/ohtainyan/>

株式会社大和生物研究所

パンダ隊

パンダ隊は笹の国に住んでいるとっても仲良しな三つ子（左から男の子、女の子、男の子）。みんなの健康を守るため、笹の国からやってきました。合言葉の「ササの葉ササササヘルス」を唱えながら、ポシェットに入っている笹から作ったパワーの源をふりまいて、得意のダンスでみんなを笑顔にしてくれます。



公式サイト <http://www.daiwaseibutsu.co.jp/>

小林製薬株式会社

熱さまくん



“あったらいいなをカタチにする” 小林製薬の「熱さまシート」。「熱が出た時に、貼るタイプの冷却シートがあれば、おでこからズリ落ちなくて便利かも!？」。

「熱さまシート」はそんな“あったらいいな”から生まれました。プルプルのジェルシートが熱をギュッと吸い取ってひんやり気持ちよくしてくれる。

急な発熱時に“あったらいいな”の「熱さまシート」。

「熱さまシート」から生まれた愛されキャラクターが「熱さまくん」。

「熱さまシート」の商品にもしっかり登場しています。

公式サイト <https://www.kobayashi.co.jp/>



イチジク製薬株式会社

かんちゃん



かんちゃんは「1月19日イチジク浣腸の日」を記念し、一般公募から選ばれたペンギンをモチーフにした斬新なキャラクター。みんなに笑顔を届けます。

誕生日：1月19日

性別：女の子

性格：明るく、元気で、優しい子

お仕事：イチジク製薬親善大使

公式サイト <https://ichijiku-kanchan.com/>



玉川衛材株式会社

たまくまちゃん

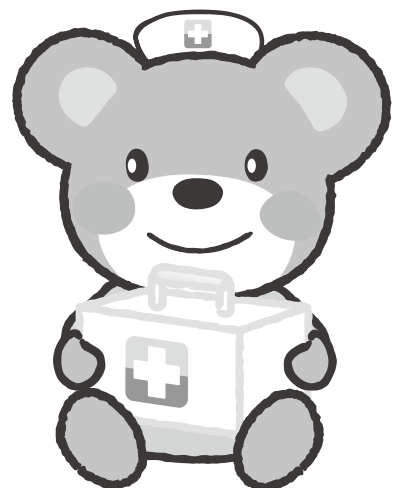
ヘルスメーカーであることをわかりやすく伝えること、安心して親しまれることをコンセプトにデザインされ、2000年に「たまくまちゃん」は誕生しました。

いつもニコニコ笑っていて、自然の中で花や小動物と戯れながら遊ぶことが大好きなクマです。

体調が悪そうな人やケガをした人を見つけると、ダッシュで駆けつけてマスクや傷薬を差し出すしっかり者な一面も。

みんなが毎日健康で幸せに過ごしてほしいと願っています。

公式サイト <https://www.tamagawa-eizai.co.jp/>





百草丸

発売開始年：昭和20年代

最深の“生薬”を追求する
日野製薬

江戸時代から時を越えて伝承された胃腸薬 伝統的であっても新しい生薬製剤

●万病に効く腹薬

日野製薬の前身日野屋は、江戸時代に中山道木曾藪原宿で創業し、霊峰木曾御嶽の「御霊薬」とも称された民間伝承薬「百草」を販売してきました。

「百草」は、キハダの内皮（生薬：オウバク）を乾燥・裁断し、水で煮出して煮詰めたエキスを板状にした単味の生薬製剤です。下痢を伴う胃腸の症状を改善します。有効成分の塩化ベルベリンには抗菌作用があり、昔は「万病に効く腹薬」「腹痛の妙薬」とも呼ばれ、風邪、赤痢、皮膚病、外傷、眼病、口内炎などに幅広く用いられました。竹の皮に包まれた「百草」は、御嶽登拝の信者や木曾路を行き来した旅人の土産品として全国に普及した胃腸薬です。



明治時代の
御嶽山休泊帳

大切にされた農耕馬への処方例も記録として残っています。戦時中には兵隊さんの慰問袋に入れられ、衛生状態の悪い外地での下痢止め薬として、あるいは胃腸の健康状態を保つためにも役立てられました。

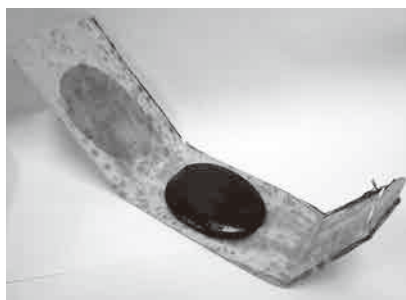
●百草丸プラスの誕生（昔も、今も、これからも）

昭和22（1947）年、第10代11代日野屋当主の日野文平が日野製薬を設立し、苦味健胃生薬「オウバク」を主成分とする「百草丸」「奇応丸」「普導丸」など数々の生薬製剤を開発・発売してきました。

平成27（2015）年には、従来の百草丸に粘膜修復成分を加えた新百草丸「百草丸プラス」を、平成28（2016）年には、効き目はあっても飲みにくかった民間伝承薬の「百草」の錠剤化に成功し「百草錠」を発売しました。「百草丸プラス」は、長年にわたって培ってきた独自の製造技術を活かして作り上げた伝統的で新しい現代人のための胃腸薬です。

●木曾の自然と生活の中から生まれた百草

かつて木曾御嶽山麓は薬草の宝庫であり、「百草」は、木曾御嶽開山の修験者がキハダの内皮を煎じて薬とすることを村人に伝えたのが始まりといわれています。木曾の厳しい自然環境の中で人々はキハダを採取し、自らの健康管理のための常備薬としたり、土産品として販売し生活を営んできました。また生計を維持するため



竹の皮に包んだ百草



発売当時



昭和 30 年代



昭和 40 年代



昭和 50 年代



現在

●良薬は口に苦し

自然の産物である生薬オウバクは、「良薬は口に苦し」の言葉にある通り、苦味や香りが味覚や嗅覚を刺激して消化管運動を活発にする健胃生薬です。服用の際には、この生薬特有の苦味と香りを感じることが大切です、当社の百草丸は、あえて、オウバクから製したオウバクチンキを二次コーティングし製品として仕上げています。通常の丸剤の場合には一次コーティングを施し完成品としますが、薬効を丸剤の中に閉じ込めてしまわないように天然の生薬の効果を服用直後に感じることで無理なく胃腸の働きが高められるように工夫した当社独自の製造方法で作上げた製剤です。



製丸作業の様子

●民間伝承薬を後世につなぐ

長い歴史を持つ「民間伝承薬」は、人類の経験に基づき導き出され現代まで受け継がれてきた薬で、現代医療だけでは完治しきれない、あるいは、緩和ケアを必要とする疾患に対して補助的に用いる薬としても見直されています。病気の予防や疾患の治療および予後の健康維持に活用していただくのに適しており、また、「自らの体は自ら守る」というセルフメディケーションに役立てていただくのに適した薬といえます。

木曾の歴史と風土に育まれてきた「百草・百草丸」等の生薬製剤を後世に伝えていくために、自然の生薬そのものの良さを活かした製剤技術を探求し、伝統を踏まえながらも新しい製品づくりに努めてまいります。



日野屋時代からの看板

百草丸プラス 第2類医薬品

●特長

百草丸プラスは、従来の百草丸に粘膜修復成分のエンゴサク末を追加した7種類の生薬を配合した胃腸薬です。胃弱・胃もたれ・飲み過ぎ・食べ過ぎ・胸やけ・消化不良・吐き気などの症状を効果的に改善します。健胃生薬のオウバクエキス、ビャクジュツ末、ガジュツ末、リュウタン末、センブリ末、便通を整える整腸生薬のゲンノショウコ末、さらに新たに、粘膜を保護し修復する粘膜修復生薬のエンゴサク末を配合しこれら「健胃」「整腸」「粘膜修復」の三つの働きにより、生活習慣やストレスや加齢などによる弱った胃腸に働きかけ無理なく改善を図ります。胃腸の調子が悪い時の常備薬としてお備えいただき、症状に応じて食前または食後に服用されることをおすすめします。

●効能・効果

食欲不振（食欲減退）、胃部・腹部膨満感、消化不良、胃弱、食べ過ぎ（過食）、飲み過ぎ（過飲）、胸やけ、もたれ（胃もたれ）、胸つかえ、はきけ（むかつき、胃のむかつき、二日酔・悪酔のむかつき、嘔気、悪心）、嘔吐

●成分・分量

1日量60粒中

オウバクエキス	1800mg
(原生薬換算量)	2300mg)
オウバクチンキ	33mg
(原生薬換算量)	60mg)
日局ゲンノショウコ末	500mg
日局ビャクジュツ末	500mg
日局ガジュツ末	500mg
日局エンゴサク末	350mg
日局リュウタン末	100mg
日局センブリ末	16mg

●添加物

カルメロースナトリウム、タルク、アラビアゴム末、薬用炭

●用法・用量

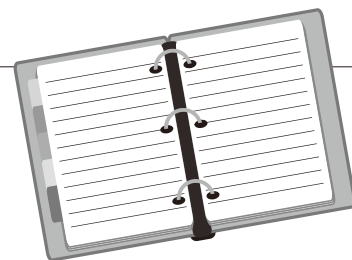
成人（15歳以上）……………1回20粒
 11歳以上15歳未満……………1回13粒
 8歳以上11歳未満……………1回10粒
 5歳以上8歳未満……………1回6粒
 3歳以上5歳未満……………1回5粒
 3歳未満服用しないこと
 1日3回食前もしくは食後に水または白湯にて服用してください。

●注意事項

- (1) 定められた用法、用量をお守りください。
- (2) 小児に服用させる場合には保護者の指導監督のもと服用させてください。
- (3) 3歳以上の幼児に服用させる場合には、薬剤がのどにつかえることのないよう、よく注意してください
- (4) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しいところに密栓して保管してください。
- (5) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (6) 他の容器に入れかえないでください。（誤用の原因になったり品質が変わることがあります。）



委員会だより



総務委員会

委員長 山崎 充

(株式会社金冠堂 代表取締役社長)

賦課金基準の見直しの検討を開始

私は、5月23日(水)に開催された東家協第71回通常総会におきまして、塩澤前委員長が東家協理事長に選出されたため、その後を受けて、7月4日(水)に塩澤理事長の要請を受け、総務委員会委員長をお引き受けしました。これからは総務委員会委員長として当組合の今後の事業の発展のために、尽力したいと思いますのでご協力をお願いします。



総務委員会は、事業計画案・予算案及び事業報告・決算書類の作成、事務所ビルの保全や事務局職員の処遇等について検討し、組合の健全運営や組合事業の円滑な推進を図っています。

まず、私が委員長に就任する前に、塩澤委員長のもとで総務委員会が開催されていますのでご報告します。4月12日(木)に開催した総務委員会では、第71回通常総会に提出するために、平成29年度決算書及び事業報告書案並びに平成30年度予算書及び事業計画書案を協議しました。事業計画書案では、次のようなことを計画しています。1) アジア諸国からの旅行者数については、引き続き増加が見込まれるため、多言語情報提供など市場拡大に向けたインバウンド関連事業に引き続き取り組むこと。2) 家庭薬の普及啓発に関しては、日家協と協力・連携し、生活者及び薬剤師などの専門家に向けたイベントを開催すること。具体的には、関係薬業団体と共に実行委員会に参画し、10月「薬と健康の週間」に合わせて「OTC医薬品普及啓発イベント」を主催していきます。3) 生活者に向けて組合活動や家庭薬関連情報を公開するホームページを運用し、広報誌『かてい

やく』による広報活動を行うことです。決算書、予算書等は理事会に提案されています。これらは第71回通常総会で承認されています。今年度の通常総会で承認された事業計画書では、組合員賦課金算定基準について言及がなされ、同基準は決定後10数年経過し、現状に合わせて見直す必要があるとの声があるため、問題点を整理し、賦課金算定基準について見直しを検討することが盛り込まれています。この点を検討するために、総務委員会では委員2名を追加でお願いし、また、太田前理事長にも相談役としてお入りいただき、賦課金基準の見直しの検討を開始しました。総務委員会は7月12日(木)と9月12日(水)に開催され、9月13日(木)開催の定例理事会におきまして中間報告を行いました。総務委員会では、透明性、公平性が確保された賦課金基準を作成すべく努めているほか、組合経費の在り方についても、組合活動全般を見直し、検討をしています。

今後とも総務委員会では、家庭薬振興を図るため、生じてくる諸課題について議論をしていきます。組合活動の推進について一層のご理解とご協力をお願いします。

薬事制度委員会 薬事部会

委員長・部会長 新田 新一

(株式会社龍角散 開発本部 顧問)

薬機法改正と三役制度、コデイン類予防的安全対策、家庭薬魅力化検討

薬事制度委員会薬事部会は、家庭薬が直面している薬事、安全性等に関連する懸案事項について、関連業界団体、行政と連携し、検討を行うと共に加盟各社との情報共有化、提言等を行っています。



家庭薬製造販売業者にとっては、2017年6月26日付厚生労働省医薬・生活衛生局長通知により三役の適切な業務実施における

留意事項が周知され、その後、2018年1月17日に局長通知に関するQ & Aが事務連絡として、更にはQ & A第2弾が2018年3月30日付で日薬連通知としてそれぞれ発出されています。通知等発出に際しては、家庭薬の抱える課題・問題点等に対処・反映していただけるよう、意見具申を積極的に行いました。

また、日薬連三役制度アンケート調査結果をもとに2016年10月新たに設置された日薬連薬制・品質合同法規制合理化検討プロジェクトタスクフォースに東家協薬事制度委員を日本家庭薬協会代表として継続して参画いただき、法規制の合理化等の検討を当局と連携して対応いただいております、その成果が反映された2018年3月9日付厚生労働省医薬・生活衛生局二課長通知として「医薬品の品質に係る承認事項の変更に係る取扱い等について」が発出されました。

このような中、当局からは三役制度の円滑な業務実施には経営者への周知徹底が必要と判断しています。当部会は日家協薬事常任委員会・大家協薬事委員会と協働して日薬連加盟団体として初めて経営者を対象とした「平成29年度東京都家庭薬工業協同組合・日本家庭薬協会 薬事セミナー」を2017年12月22日東京薬業健保会館にて開催。安全対策課大井課長補佐、監視指導・麻薬対策課磯部課長を講師としてお招きして安全管理と品質管理に関する講演を賜りました。

また、2019年は薬機法施行後5年に当たり、見直しの可否を検討することになっています。2018年2月、日薬連として、加盟各団体から薬機法改正要望を募集することとなり、東家協は日家協薬事要望として「製造管理者、総括等の資格要件の見直し」「審査業務の簡素化」等を要望として提出、現在、厚生労働省医薬品・医療機器制度部会にて見直し・改正検討が進められており、業界要望にそくした内容で取りまとめられようとしています。

昨年初制した偽造医薬品流通問題に端を発した「封の例示」に関する件も、日薬連安全性委員会医薬品安全使用対策検討部会に東家協側委員が参画し、家庭薬の包装実態を反映した検討が進められるよう意見具申を行っており、2018年8月1日付厚生労働省医薬・生活衛生局長通知「医薬品の封の取り扱い等

について」発出に際しも、家庭薬の立場から意見具申を行い、発出前に疑義照会等実施しました。本局長通知のQ & Aが近日通知化される見込みです。

ところで、2017年7月に「コデイン類の小児に対する予防的安全対策」に関する一連の通知が発出され、家庭薬当該企業において鋭意対応しているところです。しかし、諸般の事情で対応困難な企業への相談対応、2019年度以降に発出予定の禁忌通知対応について他団体と協力し、家庭薬の立場から種々意見具申を行うと共に、家庭薬企業個々のリスク回避と適切な対応の在り方について意見交換を行い、円滑に対応できるよう努めています。

最後に、家庭薬活性化策の一つとして日本家庭薬協会薬事委員会内に立ち上げ、2012年10月よりスタートしている「家庭薬魅力化PJ」につきましても活動を全面的に協力しています。日本家庭薬協会未来事業推進委員会が支援し、2017年6月スタートしたスマホアプリ「健こんばす」の立ち上げに着手。家庭薬の特性に応じたトリアージ提案、薬効の仕分け法を運営会社に助言・提案し、継続してサポートしています。そのような中、2018年3月27日、医療現場における家庭薬活用を地域医療、訪問診療、在宅医療で図るうでの課題・問題点を探る目的で、「医療と家庭薬の未来を語る—医療環境の変化と家庭薬—」と題した対談を訪問診療医、かかりつけ医の医師にご出席いただき、対談を実施。その結果が医師向け専門誌『クリニックマガジン』に掲載されました。限りある医療資源の有効活用のためにも、家庭薬の役割は重要であると考えます。在宅医療・在宅介護等、地域包括ケアシステムの取り組みも各地域で実施されており、家庭薬が在宅分野で活躍できる場面も期待でき、医師との連携を通して家庭薬の役割・機能拡大を果たすべく努めたいと考えます。

今後の新たな課題として、「薬機法改正」「医薬品の封の取り扱い通知対応」「無通告査察実施」等、対応する事項も多く、今後とも、的確かつ迅速に課題と問題点を整理し、薬事常任委員会にて協議のうえ、日本家庭薬協会薬事常任委員会に上程、率先して問題解決に当たり、当組合内に介在する薬事、安全、

GMP 関連での懸案事項の迅速検討、加盟各社への情報発信・情報共有化に努めます。

薬事制度委員会 品質部会

部会長 内藤 功一

(株式会社浅田飴 品質保証部)

リアルタイムで常に不備がないような体制に

○データインテグリティ

(データ完全性)

データインテグリティに関する GMP 監査指摘事例が急増し、今や最多となったことを受け、品質部会のメインテーマとなっています。当初は試験記録の捏造事例が発端となったことから試験データ、特に電子データを中心に話題となりましたが、最近は製造記録、紙記録にまで広がっています。

東家協では紙記録の比率が高いことから紙ベースのインテグリティを話題の中心として取り上げています。海外などの指摘事例をともに受け取ると、分析機器の買い直し、記録の作成作業及び確認作業の増大等、人員、コストの増大につながる深刻な問題となります。しかし実際は細かい規定があるわけではなく、記録内容が品質を保証するに十分なのか、すなわちデータに誤り・疑い・不足がないのかという基本コンセプトがあるのみで、データの重要度に応じて対応度合もリスクマネジメントの手法でメリハリをつければよいものであることがわかってきました。最新の国内の指摘事例、対応事例を情報収集し、過剰な対応をすることのないよう、製造業許可更新の必要十分条件を模索していきたいと考えています。

○無通告査察

PMDA では無通告査察が開始され、それに追従する都道府県も関西を中心に増えました。その結果が好印象だったことから無通告査察を推進していく傾向が強まりました。無通告査察に関する情報収集の結果、無通告査察に限らず査察の方法にも、作業現場における作業員への質問、作業室以外の部屋への立ち入り、ゴミ箱のゴミを見る、机の引き出し



を見る、パソコンデータを開くなど、遠慮せず立ち入るようになっていくことがわかりました。査察の時に限り隠し事をして取り繕う対応では通用しなくなってきており、リアルタイムで常に不備がないような体制への切り替えが必要となってきています。

○ GDP

医薬品の品質について、従来から製造における品質確保のために GMP が省令として存在しますが、このたび医薬品の出荷から患者の手に届くまでの流通における品質確保のための GDP がガイドラインとして示されました。GDP は物流倉庫も対象となるため東家協においても関心が高かったことから、品質部会のテーマとして取り上げることにしました。

○ GMP 研修見学会

昨年度はパッケージメーカーの丸金印刷市原工場を訪問し、最新の設備により不良のないパッケージを提供できるシステムを構築していることを学びました。今年度は 11 月 28 日に高田製薬幸手工場への訪問を予定しています。

流通委員会

委員長 阿部 光正

(イチジク製薬株式会社 専務取締役営業本部長)

10 月、12 月に小売企業と共同販促を実施

○今年のテーマ

- 薬価の引き下げ、調剤報酬の引き下げに伴う、小売企業の動向について
- かかりつけ薬局として、調剤薬局の併設が一段と進む中、店舗での問題点の把握
- 薬剤師の確保、24 時間調剤対応の店舗の動向などの情報共有



1. メンバー数

参加メーカーは浅田飴、イチジク製薬、太田胃散、救心製薬、キンカン、ツムラ、東京甲子社、町田製薬、ユースキン製薬、養命酒製造、龍角散、わかもと製薬、アサヒグルー

プ食品の計 13 社で構成しています。

2. 定例会について

定例会は流通委員会の常任委員会「五月会」として、毎月 1 回定例会を開催しています。また東西合同の流通委員会を毎年 1 回開催。業界内における諸問題の共有・対応、講師による勉強会も実施しています。(本年は 9 月 26 日、10 月 23 日の予定)

今年度の定例会開催日は次のとおりです。
1 月 16 日、2 月 16 日、3 月 15 日、4 月 19 日、
5 月 11 日、6 月 18 日、7 月 6 日、8 月 28 日、
9 月 26 日(予定)、10 月 23 日(予定)、11
月 19 日(予定)、12 月 5 日(予定)。

3. 活動内容

内容として①業界における行事確認、小売企業・卸企業の動向検証 ②卸各社の月別売上の検証 ③ヘルスケア卸による説明会を実施し、業績、事業の方向性、課題の検証 ④大家協メンバーである西薬会会員との情報交換 ⑤加盟企業の工場見学の実施 ⑥チェーンドラッグ企業との情報交換会の実施 ⑦小売企業様との取り組み(サツドラ様の店頭における、常備薬フェア・健康フェアへの参加(本年も 10 月に常備薬フェアの実施、12 月の健康フェアに家庭薬ブースを共同出展します)一です。今後も家庭薬メーカーと小売企業の共同販促を模索してまいります。

また、医薬品のネット販売が急激に伸長しておりリアル店舗に影響が出ていますので、今後も注意深く対応していきます。

その他、引き続きインバウンド需要も形態を様変わりしながら推移していますので、小売企業の対応も注視していきたいと思えます。

労務委員会

委員長 清水 政明

(養命酒製造株式会社 人事総務部)

来年度施行される「働き方改革関連法案」についての対応

・平成 30 年 7 月 定例委員会

①賃金や福利厚生等を含む人事労務管理に関する事項②働き方改革等に関する事項一に

ついて情報交換をしました。

・平成 30 年 9 月 合宿形式の定例委員会

健康経営についての発表及び働き方改革関連法案の取り組みについて情報交換を行いました。



今年度 4～9 月は、来年度施行の「働き方改革関連法案」について、多くの時間を割き取り組みました。同法案に関連した諸施策、諸対応は真摯な対応が必要です。法律対応は大前提ですが、従業員の帰属意識の向上に大きく関与し、生産性の向上も要件となる重要なテーマですので、今後も精力的に検討を進めてまいります。

今後とも、行政や社会の動向を含めた最新情報を収集、共有化し、委員相互の積極的な意見交換を行うことによって、会員各社の人事労務施策の立案及び実務対応に具体的に寄与する場として活動していきたいと考えています。

消費者対応委員会

委員長 堀口 登志夫

(養命酒製造株式会社 マーケティング部お客様相談室長)

養命酒製造・駒ヶ根工場にて大阪家庭薬協会と合同委員会を開催

消費者対応委員会では、年 4 回開催される日薬連安全性委員会くすり相談部会にあわせ、定例委員会を 4 回、また活動内容に応じて臨時委員会を随時開催しています。



この 1 年間の主な活動としましては、本年度の主な活動テーマとしました、各委員の発表形式によるお客様対応業務に関わる勉強会と各社の対応状況・体制に関わる深掘り項目の情報共有、また 9 月に開催しました、第 20 回東西合同消費者対応委員会等の活動が挙げられます。

以下にそれぞれ概略をご報告します。

1. 定例委員会について

昨年 11 月、本年 3 月、5 月、8 月に定例

委員会を合計4回開催しました。昨年11月におきましては、平成29年度第3回日薬連安全性委員会くすり相談部会の内容要旨報告及び委員2名によるお客様相談対応業務に関わる勉強会、また各社における対応状況・体制について情報共有を実施しました。

以降の委員会においては、①くすり相談部会の内容要旨の報告（平成29年度第4回及び平成30年度第1回、第2回）②品質・有害事象情報対応事例研究③各社におけるGVP教育訓練方法、お客様データの蓄積、社内への情報提供方法、難対応事例、各社のGVP査察等に関わる情報交換④今年度実施予定の各研修会の内容検討及び確認一等を中心に、委員相互に密に情報交換を行っています。

2. お客様対応業務に関わる情報共有について

前述のとおり、昨年度から開始した各委員の持ち回りによるお客様対応業務に関わる勉強会においては、相互に活発に情報を共有し合い、密に意見交換を行っています。この活動を通じ、自社におけるお客様対応業務や薬事関連業務に有益な情報が入手可能となると同時に、相互に情報交換を図ることで委員のお客様対応担当者としてのスキルアップに繋がっているものと認識しています。

引き続き、対応状況・体制に関わる深掘り項目の共有も含め、積極的に取り組んでいきたいテーマと考えています。

3. 第20回東西合同消費者対応研修会について

9月28日～29日に、養命酒製造株式会社・駒ヶ根工場にて大阪家庭薬協会との東西合同消費者対応委員会を開催しました。

昨年と同様、今年も秋晴れの中、長野県駒ヶ根市の弊社工場の見学ならびに東西委員各社におけるGVP査察状況等について情報交換を行いました。

当日は相互に活発な意見も飛び交いましたが、本委員会につきましては、消費者対応業務における東西間の情報共有化を図り、親交を深めることのできる唯一の貴重な場と認識しています。

今後とも、より有意義な活動へと発展できるよう、継続して実施していくべき活動と考えています。



東西合同消費者対応委員会に参加したメンバー

以上、ご報告申し上げましたが、当委員会におきましては、メンバーで力を合わせながら、定例委員会及び各活動を通じ、様々な情報を収集・発信することにより、諸先輩から受け継いだ加盟各会社全体のお客様対応に関するスキル向上を目指し、積極的な活動に取り組んでいきたいと考えています。

どうぞ、このような主旨をご理解いただき、今後とも、皆様におかれましては何とぞご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

情報広報委員会

委員長 宇津 善行

(宇津救命丸株式会社 専務取締役)

家庭薬啓発のためのイベント支援やツールを新たに作成

当委員会は、委員9名、オブザーバー2名構成で、家庭薬広報のサポートを行っています。

当委員会の活動は、東家協独自で動く内容と、日家協「未来事業推進委員会」や「広報委員会」と連動して動く活動とに分かれています。委員は全員日家協「広報委員会」の委員を兼任しており、毎月テレビ会議や移動委員会として東西合同会議を行っています。



1. 東家協独自の活動

『かていやく』の編集・発行

東家協機関誌『かていやく』は本号で96号目となります。昨年より、昭和40年の創刊号から95号全てが電子化され東家協ホームページより閲覧可能になりました。薬業界

の軌跡を記録した貴重な資料です。

今年の『かていやく』の本企画は、家庭薬加盟企業の「ゆるキャラ」の特集と、9月に行った「家庭薬シンポジウム」の内容を取材した記事です。

2. 日家協での活動

①ホームページの企画

日家協ホームページにおいてバーチャル工場見学「工場見学を楽しむ!」を企画しています。本年度はユースキン製薬株式会社様の見学(富山)を行いました。

組合が参加している企画やイベントについて、組合ホームページやFacebook、ツイッターを通して告知、報告する活動も行っています。また毎月ホームページのアクセス解析を行い、閲覧数や品質の向上についても取り組んでいます。

②イベントの広報支援や、広報グッズの作成

2018年度JAPANドラッグストアショーに協力し、家庭薬メーカー合同でセミナーの開催、スタンプラリーの実施、ゆるキャラパレードを実施しました。

第62回日本薬学会 関東支部大会にて「セルフメディケーションと家庭薬の今、そしてこれから」という題目でシンポジウムを行いました。(詳しくは本特集をご覧ください)

イベント等で広く「家庭薬」をPRするた

めに、のぼり、冊子、パネルを作成しました。日家協加盟会社様ほぼ全てにロゴデータをご提供いただき、団体として存在感を強く打ち出せるデザインになっています。

③多言語化の推進

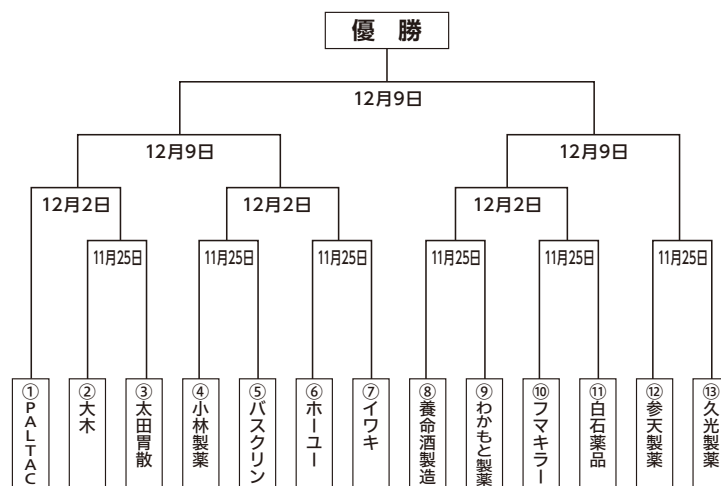
インバウンド消費行動が変化し、越境ECなどの国境を越えるチャネルも発達してきましたが、大切なのは言語の違う消費者・ユーザーにも正しく使っていただくための情報提供です。家庭薬ではかねてより、多言語(英語、繁体字、簡体字、韓国語)の情報収集を進め、ホームページに掲載してきました。最近ではPLANET社のおくすり検索をはじめ、業界を横断する商品データベースが多言語化に対応してきていますので、今後も組合員会社様の多言語登録等のサポートを進めていきます。



企業ロゴが入ったパネル

平成30年度 第76回 家庭薬野球大会の組み合わせ

10月5日(金)、第76回家庭薬野球大会に向けて野球委員会及び主将会議を開催し、参加13チームの確認、大会日程と組み合わせを決定しました。



チームNo.1は昨年度優勝チーム

ユースキン製薬株式会社



ユースキン誕生のきっかけは、手荒れに悩む主婦からのひと言

終戦後、焼け野原になった神奈川県川崎市の一角で、創業者の野渡良清は隣人からのご厚意で60坪の土地を借り受け、清明堂野渡薬店を開設しました。当時は工業薬品を扱う薬店として営んでいましたが、ある日、手荒れに悩む主婦がハンドクリームを買いに店を訪れました。そこで市販のハンドクリームをすすめると「ベタつかずにもっと効くものがあればいいのに…」と嘆いたそうです。

お客様の不満な様子が気になった良清は、お客様に喜んでいただける新しいハンドクリームづくりに取り組みます。

綿谷益次郎氏との出会いによって産声を上げたユースキン

ベタつかず、効き目があるハンドクリームを作れば、きっとお客様は喜んでくれる。そう考えた良清は、長年お世話になっている化学・薬学の専門家である綿谷益次郎氏のもとを訪れます。当時、黄色くて小さな「ビタミンB₂錠」という錠剤があり、飲んで効くなら皮膚に塗っても効果があるのではないかと考えた良清は綿谷先生に相談。良清のアイディアを綿谷先生が形にした結果、鮮やかな黄色のクリームが完成します。良清はそのクリームに「ユースキン (YOU SKIN: あなのお肌)」と名付けました。

富山工場 塵や埃の一つも見逃さない、徹底した衛生面への取り組み

2014年に竣工した富山工場内は、一辺が約30cmの立方体の箱の空気中に直径0.5 μm の微粒子が10万個以下の「2ゾーン」と、30万個以下の「3ゾーン」と、作業工程によってクリーン度の違うエリアに区分されています。主に「2ゾーン」では原料等の秤量・調製・充填作業、「3ゾーン」では包装作業が行われています。

タバコの煙の粒子が1.0 μm ですので、0.5 μm の微粒子はその半分の大きさなので、工場内がクリーンに保たれていることがわかります。

製造工程で不可欠な衛生的な水の確保と、環境への配慮

工場では水道水から各種微生物などを除去し、ろ過、脱イオン等を行う際にEDIシステムを採用しています。EDIシステムは電気の力で純水を生み出すので薬品を使う必要がなく、再生廃液が発生しない利点があります。

また、工場排水についても微生物の分解能力を使う浄化槽によって環境に負荷のない水として排出されます。

詳しい内容は日本家庭薬協会のホームページで閲覧することができます。



創業者 野渡良清



良清と綿谷先生



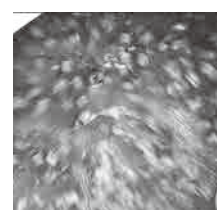
2ゾーン



3ゾーン



EDIシステム
(精製水製造供給装置)



微生物による
排水処理装置



富山工場

富山市^{やつおまち}八尾町：

八尾町は富山市南西部の山あい位置し、富山工場はJR高山本線越中八尾駅から車で10分程度のところにある。富山空港や北陸自動車道へのアクセスもよい。9月1日～3日に八尾地区で開催される「おわら風の盆」は富山県を代表する祭りであり、3日間で約25万人の観光客が訪れるという。町の中心部にある「日本の道100選」に選ばれた「諏訪町本通り線」は石畳と古い町並みが美しい。

ユースキン A ができるまで



1 秤量

搬入された原料を正確に計量する。



2 攪拌・乳化

計量した原料を乳化槽に投入する。量の多いグリセリンや精製水、その他の液体原料は自動的に計量される。乳化槽で投入された原料を混合しながら加熱・冷却してクリームをつくる。



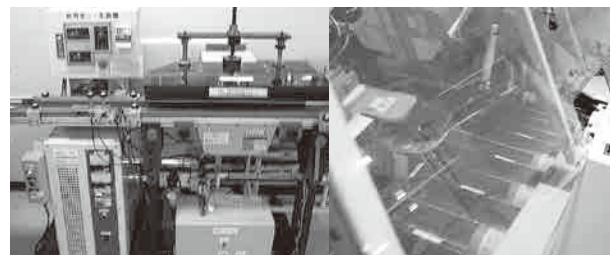
3 容器クリーナー・充填

クリームを入れる容器は、エアクリーナーで内部洗浄が行われ、充填室に送られる。そして、充填機によって注入されたクリームは、ラインに設置されたウェイトチェッカーで、適正量を検査し、万一量が不足している商品は除外される。



4 キャッピング

エアクリーナーで洗浄されたキャップが、キャッピング機で自動的に取り付けられる。容器に印字された製造番号と使用期限は、小型カメラによって確認される。



5 シール・箱詰め

高周波によってフレッシュシールが溶着され、箱詰め機に送られる。



6 シュリンク・最終包装

完成した製品は、6個単位でシュリンクされ、ダンボール箱へ納められる。こうして出来上がった製品は、いったん倉庫で保管され、出荷判定の合格を待って、出荷される。



工場をご案内いただいた野渡和義社長（一番左）と視察した日家協広報委員のメンバー



300年余り踊りつがれてきた「おわら風の盆」

家庭薬グラフィティ

第18回 JAPANドラッグストアショー ～家庭薬イベント～

幕張メッセ 3月15日(木)～3月18日(日)
※15日はプレビュー開催

第18回JAPANドラッグストアショーが幕張メッセで開催され約12.6万人が来場しました。日家協としては家庭薬共同ブース周辺に会員10社で家庭薬ゾーンを構成し、「やっぱり安心、家庭薬」をテーマに、セミナー、クイズラリー、ゆるキャラパレードなどを実施しました。

また、会員各社の製品展示や懐かしいくすり展、年表展示なども行い、家庭薬の普及啓発を図りました。

共同出展 三宝製薬(株)
家庭薬製品出展 61社 132製品



セミナーの様子



多くの人が参加した
クイズラリー



今回初の試みで実施された
ゆるキャラパレード

一般社団法人 日本女性薬局経営者の会 第3回総会

城西大学紀尾井町キャンパス 6月3日(日)



家庭薬について説明する日本女性薬局
経営者の会会長の堀美智子氏(右)



薬局経営者に家庭薬の取り組みをアピール

(一社)日本女性薬局経営者の会 第3回総会が城西大学紀尾井町キャンパスにて行われ、日家協としてパネル展示を行いました。新しく制作した活動報告のパネルまた日家協ののぼりを設置することにより、女性薬局経営者の方に団体啓蒙また新たな取り組み内容について認知向上に取り組みました。

家庭薬シンポジウム

帝京平成大学 9月15日(土)



実行委員の説明に真剣に耳を傾ける薬学生



家庭薬のパッケージは薬学生の興味をひいたようだ

9月15日(土)、第62回日本薬学会関東支部大会に日家協として初参加しました。組合活動を案内するパネルや加盟者の空箱展示、そしてシンポジストを招き家庭薬をテーマにシンポジウムを行い、薬学生および教職員にOTC医薬品とセルフメディケーションの大切さについて啓蒙しました。家庭薬の懐かしさと新たな可能性に薬学生たちの関心が集まり、シンポジウムは家庭薬と学生の新たな架け橋となりました。

薬祖神例大祭

薬祖神社（福德の森） 10月17日（水）

10月17日（水）に薬祖神社において、例大祭が行われました。今年は天候にも恵まれ多くの方々が参加されました。神事では組合の太田相談役、塩澤理事長、藤井副理事長をはじめ、奉賛会、日本橋地域、薬業界の代表の方々の玉串奉納、一



薬祖神社前に掲げられた提灯



奉賛会、日本橋地域、薬業界の代表をはじめ多くの人が参拝した

般の方々の参拝がありました。

薬祖神は薬の神様。組合員の方々や日本橋界隈の薬の企業に勤めている方々が多数参加し、東京薬事協会内に設けられたお汁粉や福引を楽しみました。恒例の福引の賞品にはマツタケに加え、特等賞には真珠のネックレスやイヤリングも加わりスケールアップ、当たりのチャイムと共に歓声が飛び交っていました。



参拝する塩澤理事長



薬祖神社前にて左から藤井副理事長、太田相談役、塩澤理事長

OTC 医薬品普及啓発イベント

～よく知って、正しく使おう OTC 医薬品

福德の森・江戸桜通り地下歩道
10月19日（金）・20日（土）

10月19日（金）～20日（土）に「薬と健康の週間」にあわせて、OTC 医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」がOTC 薬協、日家協、東京薬事協会、東京生薬協会等の主催で開催されました。この週は薬祖神例大祭と重なり、事務方には大変な一週間でしたが、天候に恵まれ、また、日刊紙での大々的な宣伝もあり、多くのお客様の訪問がありました。初日のオープニングには小池東京都知事がお見えになり、挨拶を述べられました。また、江戸桜通り地下歩道の展示会場では、日家協の「懐かしいくすり展」で藤井実行委員長から説明を受けられていました。なお、「懐かしいくすり展」はアイワ堂薬局平井先生のご好意で昔の家庭薬のパッケージやポスター等を展示しているものです。



開会の挨拶をする藤井実行委員長



イベントコーナーでは各企業の担当者がプレゼンテーションを行い、OTC 医薬品の普及啓発を行った



日家協ブースでは日刊紙の記事を掲示



日家協ブースにおいて藤井実行委員長(右)から家庭薬の説明を受ける小池東京都知事



挨拶の後に家庭薬のゆるキャラとふれ合う小池東京都知事



天候に恵まれ、多くの方が会場を訪れた

事務局だより

● 6月11日 (月)

午後2時から日本家庭薬協会理事会・常任理事会合同会議を、また、午後3時30分から第53回定期総会を開催しました。これらの会議で平成29年度事業報告及び決算報告並びに平成30年度事業計画及び予算が承認されました。

今回は役員の改選期に当たり3期会長を務められた柴田会長に代わり、太田会長が選任されました。

総会後の懇親会では、ご来賓として、お見えいただいた藤井参議院議員、厚生労働省山本医薬品審査管理課長、大衆薬卸協議会水上副会長、日薬連宮島理事長及び日本薬剤師会山本会長からご挨拶をいただきました。

● 7月2日 (月)

第71回通常総会では本組合の定款一部変更が承認されたため、東京都に対し、定款変更の認可を申請していましたが、小池東京都知事の認可がおりました。

新たな定款では組合員の資格に医薬品（家庭薬）及び医薬部外品の製造業に加え、製造販売業が明記されることとなりました。

また、あわせて暴力団排除の規定が加わりました。

● 9月7日 (金)

日家協広報委員会でユースキン製薬(株)富山工場を見学しました。工場は富山市八尾町という

富山駅から高山本線で30分ほど南西に行った閑静な山あいには位置しています。

工場では野渡社長からユースキン誕生の苦労話等をお聞きし、近代化された工場を見学しました。

あわせて移動委員会を開催しました。

● 9月28日 (金) ～ 29日 (土)

両日にかけて東西合同で消費者対応委員会が駒ヶ根で開催されました。28日は天気が良く、伊那谷を挟んだ南アルプス、中央アルプスの山並みがくっきりと見渡せました。駒ヶ岳、千畳敷カールもはっきりと望むことができました。

養命酒製造(株)駒ヶ根工場を見学した後、養命酒健康の森の広大な敷地の散策を楽しみました。

● 10月5日 (金)

第76回家庭薬軟式野球大会に向けて野球委員会及び主将会議を開催し、参加13チームの確認、大会日程（11月25日、12月2日、12月9日の各日曜日）、組み合わせ及び野球委員の立会日等を決定しました。その結果を受けて、毎年審判をお願いしている外苑審判倶楽部に、本年の野球大会の審判をお願いしました。

昨年は、雨で大会の開始が予定よりずれ込んでしまったものの、はじまってからは晴天に恵まれました。今年も晴天のもとでの参加チームの皆さんの活躍を期待しています。

編集後記

AI(人工知能)が世界を変えるだろうと、日々話題に上っています。世の中にインターネットが定着し、スマートフォンが行き渡っても、世界の変化はまだ続くようです。我々情報広報委員会も、新しい様々な広報技術に挑んでまいります。

さて、通巻96号を数える本誌ですが、バックナンバーを読み返すと、先人たちの進取の気質が歴史と伝統を作ってきたことがうかがえます。本号が、未来に進む組合の「いま」を多少でも捉えられていたら幸いです。

(株式会社山崎帝國堂・竹内)

かていやく

通巻96号 2018年11月30日

編集人：東京都家庭薬工業協同組合 情報広報委員会

発行所：東京都家庭薬工業協同組合

〒104-0061 東京都中央区銀座8-18-16

銀座J8ビル3階

TEL 03-3543-1786 FAX 03-3546-2792

Eメールアドレス／tokakyo@tokakyo.or.jp

<http://www.tokakyo.or.jp/>